

授業科目名	いまを生きるための倫理学	担当教員	廣瀬 一隆
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年 第1クオーター		
講義内容	倫理学とは、人と人が互いを尊重して対話しながら、より善い生き方を探る営みです。本講義の目的は、国内外の主要な倫理学の議論を概観しつつ、現代社会のさまざまな場面で生じる応用倫理学的問題を見つけ、自分たちにとって大切な問い合わせとして、他者との対話を通じて考える力を養うことにあります。また担当教員の新聞記者としての経験も踏まえ、SNS から報道機関まで、現代のメディアにおける課題も考えます。		
到達目標	1. 重要な倫理学説について簡潔に説明することができる。 2. この世界で他者と「より善く生きる」とはどういう営みかを倫理学的に説明できる。 3. 応用倫理学の諸問題のなかから、「自分たちにとって大切な問い合わせ」を見ることができる。 4. その問題を考える道筋を、他者との対話を通じて、より深く、より楽しく考えるモラルを身につけることができる。		
授業計画	第I部 倫理を考える意味 1 「論破」することが目的なのか (ソクラテスとプラトン) 2 誰もが守るべき「義務」はあるか (カント) 3 「功利主義」はどこまで認められるか (ベンサムとミル) 4 動物を食べてもよいか (シンガー) 5 対話のための「徳」とは (フリッカー) 第II部 現場で起こる諸問題 1 現代政治と SNS—近年の選挙を軸に 2 戦争報道とプロバガンダ—戦時中の報道から 3 パンデミックの諸問題 4 遺族取材の困難さ—受け入れられない惨劇の記憶 5 罪と罰—死刑は本来どうあるべきか 6 生命の未来—先端医療とどう向き合うか 7 性と結婚、家族—ジェンダーと結婚から問う		
事前・事後 学習	事前には、あらかじめ提示された論点について考えをまとめておく。また事後には、講義や対話・討論を通じてえられた示唆にもとづいて、自らの問題についてさらに考察を深め、自らの考えをまとめること。		
テキスト	児玉聰『実践・倫理学—現代の問題を考えるために』(勁草書房)		

参考文献	広瀬一隆『誰も加害者を裁けない 京都・亀岡集団登校事故の遺族の10年』 (晃洋書房)
成績評価の基準	出席や受講態度(15%)、中間レポート(35%)、期末試験なし最終レポート(50%)によって総合評価します。
履修上の注意 履修要件	グループによる対話討論を積極的に導入します。
実践的教育	
備考欄	定員を超過した場合、抽選により履修者を決定します。